

第36回高知県地方港湾審議会 議事概要

令和3年12月7日（火）10:00～12:00

於：高知共済会館3階 「桜」

発言内容	発言者
<p>【意見】 コンテナ船大型化に伴う、道路交通の変化について教えて欲しい。</p>	委員
<p>【回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸上交通については、コンテナやバルク等の貨物車両とクルーズ船の旅客バス等が混在するため、車両動線の分離や複数車線化等の整備を実施しているが、今後も利用しやすい動線の確保を引き続き検討していく。 	事務局
<p>【意見】 増深計画達成のための着手時期、費用や浚渫土砂について教えて欲しい。</p>	委員（代理）
<p>【回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 着手時期は、令和5年度以降の予定である。 ・ 費用は高額になると思われるが、B/Cを勘案の上、整備を行っていきたいと考えている。 ・ 工事は、岸壁を利用しながらの整備となる。荷役作業に影響が出ないように計画立てて利用を調整し、3～4年の工期で仕上げたいと思っている。 ・ 増深工事で発生する浚渫土砂は、2,400 m³程度、西港区の方に仮置きを考えている。 	事務局
<p>【意見】 浚渫による環境影響評価をしているか。増深により、津波、高浪の被害への変化はシミュレーションするのか。</p>	委員
<p>【回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境調査は実施している。 ・ 高波浪への影響としては、岸壁前面等一定の深さがあるため、増深したことにより被害が増大することはないと考える。ただし、全くないとは言い切れないので、ソフト対策で対応していきたい。また、増深による津波被害の変化についてのシミュレーションは行っていない。四国地方整備局の防波堤のシミュレーションの結果なども参考にしながら丁寧な説明を心掛けていきたいと思う。 	事務局

<p>【意見】 近隣のコンテナターミナルは外洋に面していない。高知港は太平洋に面していることから、地理的にも影響を受けやすいと思われるが、防災面でどうなのか。</p>	<p>委員</p>
<p>【回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の被災情報を確認し、継続的に今後の情報も取り入れながら整備を図っていききたい。 	<p>事務局</p>
<p>【意見】 増深後、船社の利用見通しとしては。</p>	<p>委員（会長）</p>
<p>【回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、2社（興亜 LINE(株)、長綿商船(株)）が就航しているが、興亜 LINE(株)の親会社は長綿商船(株)のため、実質1社の利用である。 ・現在は水深が浅いため、荷役調整、抜港のスケジュール管理に苦労している状況である。 ・世界的に見て、日本のコンテナ運賃は安すぎ、コンテナ不足の現在、日本の貨物を避ける傾向にある。今後の見通しについては、コロナの影響が収まらないと見通しが立たない。ただ、日本ではコロナの感染状況が落ち着いたため、県内外の情報を入手していききたいと考えている。 	<p>事務局</p>
<p>【意見】 地球温暖化、SDGs の流れもあり、地産地消の方向が良いと思うが、どの程度見込めるか。今回計画は当面の対策としたものと理解できるが、環境に負担がかからないような計画をしているか。</p>	<p>委員</p>
<p>【回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の計画変更にあたり、地球温暖化等に関する長期的な計画は検討していない。 ・港湾では、輸送船舶の大型化や使用燃料の LNG 化といった環境負荷を低減させる取り組みをしています。ただ、発電用燃料の多くを海外に依存しており地産地消は難しい状況です。今後も高知の立地を活かしながら検討したいと考えます。 	<p>事務局</p>